

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：33703

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02431

研究課題名(和文) 地域文化としての能楽の継承に関する調査研究 豊橋市魚町伝来の狂言伝書をもとに

研究課題名(英文) Research on Kyogen Drama Scripts Possessed by Uomachi in Toyohashi as the Local Culture

研究代表者

米田 真理 (Yoneda, Mari)

朝日大学・経営学部・教授

研究者番号：20398358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の対象は、江戸後期から戦前まで住民による能・狂言の上演が盛んだった愛知県豊橋市魚町に残存する狂言台本である。まず資料の悉皆調査と写真撮影を行い、データベース化と写真のPDF化を行った。また、資料群を時代別、作品別に整理し、最も古い年代の台本である江戸時代後期のものと、当地の標準的な台本とみられる牧野新作(真三九・方叔)書写のものに着目して特徴をまとめた。さらに、本研究の背景や成果を一般向けにまとめ、愛知県内の図書館や博物館、教育委員会に配布することで、成果を地域に還元した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世以降の能楽の歴史の中で愛好家によって支えられてきた部分については、未だ具体的な事例研究は多くない。本研究では地域住民が継承してきた狂言について、本文比較を通して、台本が編まれた背景や地域間交流、さらにこれまで言及されることが少なかった狂言の家元制度について考察した。また、本研究の成果については地域に還元することを目的としていたが、2019年に「三河地域周辺の芸能に関する便覧」と報告書を兼ねた一般書を刊行し、愛知県内の図書館や博物館、教育委員会に配布した。

研究成果の概要(英文)： In Toyohashi Uomachi, townspeople had played Noh and Kyogen as Local Culture since late Edo Period to before the Pacific War. In August 2006, about 150 Kyogen script books were found. In this study, first, All drama scripts was taken as digital photos, and created databases of them. Second, they were compared with other scripts established in Izumi school in Nagoya. Most of them are very similar to Namigatabon wrote by HAYAKAWA Kohachi, a Kyogen performer and professor, but a small part of them have the same characteristics written by IZUMI Motonari the leader of Izumi school. This case shows that the Iemoto System of Kyogen affected to local culture in late Edo Period.

研究分野：能楽

キーワード：狂言台本 和泉流山脇派 家元制度 豊橋

1. 研究開始当初の背景

本研究の対象である豊橋市魚町は能面や能装束が多く残され能楽の盛んな地域として注目されていたものの、これまでまとまった文献資料は見出されていなかった。だが、2006年8月の東海能楽研究会による調査で、演能の拠点であった安海(やすみ)熊野(くまの)神社で約150点におよぶ狂言台本が発見された。それらを整理する過程で、台本は和泉流山脇派の「波形本」(天明6年[1876]頃、家元の高弟・早川幸八(初代)によって書写されたもの)を基本とし、江戸時代から大正時代にかけて、吉田藩士や町人により転写・改訂が繰り返されていることがわかったが、さらに詳細な調査研究の必要が生じていた。

2. 研究の目的

本研究では安海熊野神社の狂言台本について、豊橋市魚町という一地域で伝承されていた江戸後期から戦前という長期間にわたって書写・継承されたという2つの大きな特徴をふまえ、和泉流山脇派の台本との比較を柱に、台本の伝播や地域間交流についての具体的事例を示すことを目的とした。同時に、台本のデジタルデータを作成し、研究成果を地域に向けて公開することで、資料保存の必要性をアピールすることも目標とした。

3. 研究の方法

2006年8月の東海能楽研究会による予備調査の成果をふまえ、以下の作業を計画した。1)安海熊野神社蔵の狂言台本について悉皆調査を行い、書誌の記録や複写(写真撮影)を行う。2)地域住人に聞き取り調査を行う。3)和泉流山脇派の台本や愛知県新城市の資料と比較し、狂言台本の伝播や地域間交流についての具体的事例を示す。4)資料の善本について影印や翻刻本文を作成し発表する。5)公開報告会を開催し、本研究の成果を地域に還元する。

研究の遂行にあたっては、研究代表者(米田)、研究分担者(林)のほか、文献資料調査の経験者や、狂言師、能面作家といった、各種分野の専門家の助力を得る。このメンバーは2006年の予備調査にも参加しており、効率的な調査研究が可能となった。

4. 研究成果

上記「3. 研究の方法」に記した各作業について、次のような成果を得られた。

1)2017年10月と11月、所蔵先である豊橋市安海熊野神社にて調査を行い、対象とする資料全点の写真撮影が完了した。これらをもとに狂言台本のデータベースを作成し、所収曲名や署名、年代等による検索が容易になった。また、資料全点の写真についてPDF化を完了した。

2)魚町能楽保存会の会員2名にインタビューを行い、往時の状況について伝え聞いている事項や、現在の資料保存や活動の状況について記録した。

3)台本の中でもっとも古く江戸後期の文政年間に書写された古市音蔵(乙蔵)本について、この人が俳人として知られ宝暦年間以降魚町で宿屋を営んでいた五束斎木朶の子孫であることを指摘した。また37番におよぶ台本の所収作品と番組とを照合したところ、当人が出演したか、もしくは見た狂言の記録であることが知られた。また、魚町および魚町と交流のあった新城で指導していた早川幸八家の台本『波形本』や、江戸時代後期の和泉流家元である和泉元業が新修した台本『雲形本』との比較を行ったところ、文政年間の台本にのみ『雲形本』の混在が見られることを見出した。このことから、家元としての元業の台本編集が、地方の素人弟子たちへの指導にも少なからず影響を及ぼしていたとの見通しを得た。

下記4)に示すところの牧野新作書写本は、ほとんどの作品が『波形本』の引き写しといえる本文だが、茸は結末部だけが『波形本』と異なっており、かつ、そのことは魚町蔵の江戸後期の茸にも共通している。これもまた、家元である元業が茸の性格付けを規定した影響によるものと考えられる。これらの知見を通して、これまで論じられることの少なかった狂言の家元制度の考察に発展する可能性を見出した。

台本に混入していた昭和11年6月付けの新城の原田嘉門から豊橋の藤城良吉あてのはがきをもとに、両地域の能楽興行をめぐる交流について具体例を示した。このハガキは塗師の共演をめぐるもので、塗師は名古屋のプロの狂言師による上演は希有であるにもかかわらず、大正期から戦前までの豊橋と新城では盛んに上演されていたことを示し、地域芸能としての魚町の狂言の特徴を示すことができた。

4)豊橋と交流のあった新城の出身で、明治10年代に師匠格とされていた牧野新作(眞三九・方叔)書写の台本について、豊橋で継承されてきた台本の祖型を残す善本として位置づけ、翻刻の作成と公開を行った。現在、全17番のうち8番の公開が完了しているが、今後も作業を継続していく。

5)新型コロナウイルスの感染拡大により当初予定していた公開報告会は実施できなかった。そこで、これに換えて、本研究の研究分担者や協力者とともに、「田原藩の能楽」「魚町能楽保存会所蔵の狂言“松離子”伝本紹介と比較」「三河地域周辺の芸能 研究・学習便覧」等の成果を一般向けにまとめた『能・狂言における伝承のすがた』を公刊し、愛知県内の図書館や博物館、

教育委員会に配布した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 米田真理	4. 巻 24
2. 論文標題 豊橋市魚町 安海熊野神社蔵 一枚のはがきから 豊橋・新城 地域間交流の一断面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東海能楽研究会年報	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米田真理、雲形本研究会	4. 巻 29
2. 論文標題 豊橋市安海（やすみ）熊野神社蔵狂言伝書の性格 [三]	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋芸能文化	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米田真理	4. 巻 44
2. 論文標題 豊橋市安海（やすみ）熊野神社蔵 牧野新作（眞三九・方叔）関係伝書 翻刻と解題 [一]	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朝日大学一般教育紀要	6. 最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 米田真理	4. 巻 46
2. 論文標題 豊橋市安海（やすみ）熊野神社蔵 牧野新作（眞三九・方叔）関係伝書 翻刻と解題 [二]	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 朝日大学一般教育紀要	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米田真理	4. 巻 26
2. 論文標題 豊橋魚町の狂言台本と『波形本』 - 《茸》(くさびら)をめぐって -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海能楽研究会年報	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 米田真理
2. 発表標題 豊橋市魚町(うおまち)所蔵狂言台本にみる江戸後期～明治十年代の和泉流狂言における地方教授の様相～
3. 学会等名 第57回藝能史研究会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田 麻子・加賀谷真子・寺田詩麻・米田真理・黒田宏樹・檜常正・小林久子・羽田昶(ワザハル)・三浦裕子(司会)
2. 発表標題 能・狂言から「いま」を読み解く 第4回 舞台芸術と字幕・音声ガイドーポストコロナを見据えて
3. 学会等名 武蔵野大学能楽資料センターオンライン公開講座(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 東海能楽研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風媒社	5. 総ページ数 290
3. 書名 能・狂言における伝承のすがた	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 和利 (HAYASHI Kazutoshi) (70173002)	名古屋女子大学・文学部・教授 (33915)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 友彦 (SATO Tomohiko)		
研究協力者	佐藤 和道 (SATO Kazumichi)		
研究協力者	飯塚 恵理人 (IIZUKA Erito) (00232132)	椋山女学園大学・文化情報学部・教授 (33906)	
研究協力者	保田 紹雲 (YASUDA Joun)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関